

総合人間科学 倫 理 学

1 構 成 員

	平成22年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（ 0人）
助教（うち病院籍）	0人（ 0人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	2人

2 教員の異動状況

森下 直貴（教授）（H14.11～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（ 2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	3編（ 3編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴, 生命と回復—<規準>としての健康, 比較思想36: 14-23, 2010. 3
2. 森下直貴, 「家族の変容」から見た代理出産と終末期医療の未来, 浜松医科大学紀要 (一般教育) 24: 1-22, 2010. 3

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1.

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1.

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴, 西田・三木・戸坂の思想とくもの思考—「経験と制度」の歴史哲学への視座, 『<昭和思想>新論—二十世紀日本思想史の試み』津田雅夫編, 文理閣, 2009.7, 第2章 (87-179頁)
2. 酒井・中里・藤森・森下・盛永編『新版増補 生命倫理事典』太陽出版, 2010.2
3. 森下直貴, 「家族」の未来のかたち—結婚・出産・看取りの人類史的展望, 『シリーズ哲学から未来をひらく』第1巻, 古茂田宏ほか編, 青木書店, 2009.12, 第3章 (64-96頁)

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- 1.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

- 1.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- 1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- 1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

- 1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

- 1.

5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)

(2) 厚生労働科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

1.

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	3件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	4件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	2件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

1. ナノエシックスの哲学的基礎—デュピュイの二つの論文をめぐって、講演、エンハンスメント研究会（第三回）、松本市、2010.15-16
2. 日本における「文化と死生観」—重層的コモンセンスの視点から、講演、日本の文化に示される死生観についての研究：第二回研究会、東京、2010.3.2
3. 今日/未来の若者への視点、講演、第5回人材育成地域研究会、浜松市、2010.3.9

3) シンポジウム発表

1. 生命と回復—健康概念を中心に、比較思想学会、講演、静岡市、2009.6.13

4) 座長をした学会名

1. 日本医学哲学・倫理学会、座長、大津市、2009.10.31
2. シンポジウム「移植医療の学際的検証」、座長、日本生命倫理学会大会、横浜市、2009.11.14
3. 公開講座「改正移植法の論点」、静岡県・静岡大学ネットワーク、座長・オーガナイザー、浜松市、2009.12.25
4. 公開講座「脳死と臓器移植」、科研費促進費、座長、名古屋市、2010.2.27

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 日本医学哲学・倫理学会：評議員
2. 日本倫理学会：年報編集委員、和辻賞選考委員（～2009.10）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件

(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

1. ナノテクノロジーの倫理，東洋英和女学院・大林雅之ほか4名，生存研究所
2. 人材地域育成研究，浜松大学・中西毅ほか15名，文部科学省

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

1.

11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 本学の「学術研究プロジェクト」ならびに「国際共同研究」の支援を受け、日本で独立した生命倫理研究センターを設立する上で参考にするため、年度末に、日本ならびに米国の状況を調査した。まず、日本国内では現在唯一のセンターである東京大学のCBELを訪問し、インタビューによって実状を尋ねるとともに、関係者と意見交換をした。次に、米国の世界的に有名なヘースティングス・センター（ニューヨーク）及びケネディ倫理研究所（ワシントンDC）を訪問し、そこで活動が連邦・州の政策・法律にどのように反映されているか、また、当センターでまとめたガイドラインが全米でどのような影響力をもっているか、さらに、コンセンサス形成のやり方についてそれを支える運営実態を含めて実地に調査した。以上を通じて、日本でのコンセンサス形成においていま実現すべきことは、独立センターの設立ではなく、むしろ全国の研究者とその研究をつなぐネットワークづくりであることを確認させられた。また、米国調査を通じてコンセンサス形成への視界が開かれただけでなく、同時に、その基礎となるコモンセンスへの視点とその重要性を再認識することができた。この視点は向こう四年間の科研費研究（平成22～25年）の支えとなるはずである。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1.

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1.

15 新聞，雑誌等による報道

1.